

1 「NTT R&Dフォーラム2010」の概要

昨年を上回る来場者で賑わった 「NTT R & D フォーラム 2010」

2010年2月22日～24日、“人、社会、地球にやさしい未来を拓くICT”をテーマに「NTT R&Dフォーラム2010」が開催された。会場となったNTT武蔵野研究開発センタには、昨年を上回る4,600人を超える来場者が訪れた。NTTの研究開発の方向性と研究成果を示す場であるNTT R&Dフォーラムは、来場者数が年々増加する傾向にあり、有意義なイベントとして成熟期を迎えたといえる。

4,600人超の来場者で大盛況の 「NTT R&Dフォーラム2010」

今回のフォーラムは、“人、社会、地球にやさしい未来を拓くICT”をメインテーマに、「社会問題、環境問題への対応、安心・安全な社会の実現」を中心に、未来社会に貢献するNTT研究所の取組みが、講演やパネルディスカッション、展示・デモを通して紹介された。また開催期間中は、武蔵野R&Dセンタ内の技術史料館を開放し、電電公社時代から一貫して日本の通信を支え続けてきたNTT R&Dの技術開発の蓄積が実感できる「タイムスリップツアー」も実施された。

「22日の午後は、NTTグループ向けの内覧会、23日～24日の2日間は一般招待者や海外招待者向けに開催しました。3日間で、NTTグループ



写真1 講演するNTTの
三浦 惺代表取締役社長

会社のお客様である企業、官公庁・大学関係者、IR関係者など、昨年を上回る4,631人の方々にご来場いただきました。」(NTT情報流通基盤総合研究所 杉田敏情報戦略担当課長)

講演・パネルディスカッション

23日の基調講演では、まず三浦惺代表取締役社長が、「社会的課題の解決に貢献するICTサービスの創造」と題して、NTTグループにおけるR&Dの位置付けや、様々な分野におけるICTの利活用に向けた研究開発を含むNTTの取組みに関する講演を行った(写真1)。続いて、R&D部門を統括する篠原弘道取締役研究企画部門長が、「豊かな未来



写真2 講演するNTTの
篠原 弘道取締役研究企画部門長

を拓き・支えるICTの確立に向けて」と題し、社会的課題の解決に貢献し、人、社会、地球にやさしいICTの実現を目指すNTT R&Dの役割と取組みについて講演した(写真2)。B1のイベントホールに特別に900席を設けた大講演会場は、満席という盛況ぶりであった。

基調講演に続いて、「クラウドコンピューティングへの取組み」と題し、NTT R&Dのクラウドコンピューティングに関する研究事例と、その先の将来像を紹介するワークショップが開催された。

24日は、脳科学者の茂木健一郎氏による「偶有性(contingency)」をテーマにした特別講演が行われた。同講演の中で茂木氏は、「ネッ



NTT情報流通基盤総合研究所
企画部 情報戦略担当課長
杉田 敏氏

トワーク社会では、“偶有性”を上手にデザインしたインタラクティブなサービスが成功すること、そして偶有性のあるサービスには“セキュアベース”が必要であり、それをNTTに期待したい」と強調した。

また午後からは、「ICTイノベーションで拓く未来～新サービス創造と社会的課題への挑戦～」と題するパネルディスカッションが開催された。日本経済新聞社の関口和一論説委員をコーディネータに、パネリストとして永井研二日本放送協会専務理事、南場智子ディー・エヌ・エー代表取締役社長、宇治則孝NTT代表取締役副社長が参加し、“社会・経済の発展に向けたグローバル展開”“ICTイノベーション促進に向けた取組み”などに関するディスカッションが行われた。

さらにパネルディスカッションに

続いて、「人間情報科学からICTへ～五感・情動・コミュニケーション～」(コミュニケーション科学基礎研究所 柏野牧夫グループリーダー)と、「ホームICTへのNTT R&Dの貢献」(サイバーソリューション研究所 大村弘之プロジェクトマネージャ)の2つのワークショップが行われ、人間情報科学やホームICT技術に関するNTT R&Dでの研究開発の状況が紹介された。

R&D成果の展示・デモ

NTT R&Dの成果を紹介する展示・デモコーナーでは、「人・社会・地球にやさしい技術とサービス」をテーマに、「暮らし」「社会」「企業」の3つの観点から、社会問題の解決に貢献するサービスや基盤技術の紹介が行われた。3つの総合研究所(サイバーコミュニケーション総合研究所、情報流通基盤総合研究所、先端技術総合研究所)から合わせて85件の研究成果が展示・紹介された。NTT R&Dの様々な取組みをパネルやデモンストレーションを交えて

紹介された展示コーナーは、どの会場も多くの来場者で賑わい、配付されたガイドブックを見ながら、説明にあたった若い研究者の方々と熱心な意見交換を行う光景が見られた。

なお、来場者へのアンケート調査の結果、後続頁で紹介する5つの研究成果(「RedTacton」「Virtual Smartphone over IP」「ライブログ」「ホームICT基盤」「2量子ビット演算を実現する半導体量子ビット」)がフォーラム終了後に優秀展示として表彰された。

成熟期を迎えたR&Dフォーラム

総研ごとの単独開催から3総研統一へと開催方法を変更して今年で3回目のNTT R&Dフォーラムは、参加者のNTTの研究開発への関心を高める有意義で充実したイベントとして完全に定着した。今年からは海外の主要キャリアも招待するなど、成熟期を迎えたといえる。前出の杉田敏課長は、「今回のR&Dフォーラムを通し、NTTの研究開発の在り方に関し、示唆に富んだ貴重なご意見を多数いただきました。次回は、

研究成果の展示・説明方法や、ワークショップの在り方などを含め改善すべきところは改善し、さらに国内外の来場者の皆様に分かりやすい情報発信の場にしていきたいと考えています」と抱負を述べている。



写真3 総合受付では手際の良い対応が



写真4 来場者で賑わうR&D成果の展示・デモ会場



写真5 ホームICTのテストベッドに関する説明を熱心に聞く来場者